

福マネット

<発行日>
令和3年5月1日

第22号

「福マネット」とは「福島のカーマネジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言

会長
菊地 健治



会員の皆様には、当協会の運営にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大が収まらない状況が続き、コロナ禍というトンネルの出口が見えていない状況です。トンネルの中を如何にして出口に辿り着けるかのために、3密を避ける、マスクの着用、会食の自粛など、これまでの生活とは違った新しい生活様式となってきました。

このような状況下、皆様には利用者を守るためにいろいろな制限の中で、最大限の支援をしていただいていることに頭が下がります。

さて、新しい生活様式の実現に必要な当協会の事業は各種研修事業となります。確かに研修は多くの方が集まり、3密になりやすくなる場所となります。

当協会としては、以前にもお話いたしました、「一般社団法人福島県介護支援専門員協会により催される研修会等における新型コロナウイルス感染対策に関する基本方針について」により、令和2年度は研修を開催してきました。本年度も同様に開催を

てまいりたいと考えていますが、より一層の感染拡大防止を図りたいと考え、オンライン研修の充実や各地域での小集団（30名程度）での集合研修を実施していく予定です。会員の皆様に参加しやすい開催方法で受講の機会を多くしていけると思われます。

当協会としても会員の皆様のためにも実現を進めていますので、開催の際はぜひとも受講参加をしていただければと思います。

また、本年度は介護報酬改定で皆様もお忙しい年度初めになっていることかと思いますが、当協会としても説明会を開催して会員の皆様へ情報の発信をさせていただきます。

本年度は役員改選となり、新たな役員構成となりました。コロナ禍の協会運営を担っていただくために実務型の新たな組織編成をし、体制の強化と会員の皆様への支援強化を図っていけるような協会組織としていきたいと思っております。

新たな取り組みとしては、書籍編集委員会を設置し、会員の皆様のケアマネジメント業務に少しでも役立てていただけるような書籍を年度内には発刊していくことを目指しておりますので、楽しみにお待ちしております。

最後になりましたが、コロナ禍での新しい生活様式の中での新しい研修様式などと協会運営も新しい様式へと変換していきますのでよろしくお願いいたします。

目次

巻頭言	1
福マネットリレー “結”	2
新しい生活様式による地域協議会の活動...	2
組織体制の見直し	3
オンライン研修の感想	3
試験結果とお知らせ	4

ハイライト

- ◆菊地会長から皆様へ
- ◆安達地方の“結”
- ◆コロナ禍の福島市から
- ◆会員の支援体制を充実
- ◆進む研修の「新常識」で更なる向上を

福マネット
リレー

安達地方介護支援専門員連絡協議会

安田晴絵

福島県の中央部に位置し、日本百名山の一つ、紅葉の名所としても知られる標高1700mの安達太良山を望みながら、地域の高齢者が住み慣れた「ほんとの空の下」で安心して暮らし続けるために、日々奔走する二本松市、本宮市、大玉村の介護支援専門員による安達地方介護支援専門員連絡協議会をご紹介します。

昨春、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言の発令以降は、講師をはじめ、多数の人々が集合する形態での研修の計画変更を迫られ、オンライン研修に舵を切ろうとしましたが、会員の多くがオンライン研修を受講できる設備が整わずに事業を実施することができませんでした。一昨年も「令和元年東日本台風」の被災により、研修会を中止したこともあり、2年連続で当連絡協議会は事業を見直しせざるを得ない状況が続いており、会員の皆様には大変申し訳なく思います。しかし、新年度を迎え、役員を改選し、互いに協力しながら新たな気持ちで地域協議会を運営する所存です。

まずは、それぞれの会員が多忙を極める中で、

いかにして感染リスクを回避するためにどのような形で事業を実施するのが適しているのか、更には会員同士のコミュニケーションが活発に行われるようにサポートする仕組みを構築したく、その仕組みづくりを工夫し検討を続けます。

また、介護報酬改定の年である本年は改定の趣旨に沿った研修の機会を設けます。福島県介護支援専門員協会の協力をいただきながら、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」に着目し、地域の介護支援専門員のウィズコロナ、アフターコロナを共に考えたいと思います。



コロナ禍における福島市ケアマネ協議会での取組について

福島市介護支援専門員連絡協議会 会長 田中嘉章

集まり顔の見える関係の構築を通して連携の推進、研修会開催を主としてきました。今までのスタイルから変わり、コロナ禍で当協議会が取り組み始めた事業を5つ紹介いたします。

①リモートでの役員会

ZOOMアプリを使って会議を3回開催。初めは思うように繋がらず苦戦したが、回数を重ねる度に意見が出やすくなった。

②コロナ対策委員会発足

今年度、第1回役員会（ZOOM）において「コロナ対策委員会」を発足した。会員へ委員会の目的と役割、活動内容を周知し、会員からの意見や疑問点を集約。行政へ発信と回答の流れを作成。現在まで7件の質問票問い合わせを受け、メールにて包括、居宅、会員へ周知。コロナ対応について行政との協力関係と連携が深まった。

③ユーチューブ配信研修

ユーチューブ配信にて会員研修を2回開催（7,11月）。会員へ限定視聴URLとQRコードを案内チラシにて郵送。視聴はライブ配信から1週間とした。視聴回線から60～70人視聴したと想定（回数はいちいち多い）。参加人数としては以前と変わらな

いが、当日視聴できなくても後日視聴でき良かったとの意見も聞かれた。

④会員のメール登録と登録者への情報提供

メールにて県協会からのお知らせ、「厚生労働省介護保険最新情報」やコロナ対策委員会から質問回答を含め役に立つ情報をタイムリーに通達できるようにした。

⑤会員名簿の配布

仲間意識及び組織力の向上を図れるように会員名簿を配布。以前から作成したいと準備してきたものが実施できた。

コロナが収束しても、新たに行った取組は活かされるはず。新しい時代への転換点であるからこそポジティブな視点を持ち、固定観念に囚われずチャレンジしていきたい。まだまだ、会員のために何かできることはないかと考えております。



令和3年度の組織体制見直しについて

副会長 吉田 光子

令和3年度は、協会の新しい事業の創設や会員への支援体制を充実することを目的として、これまでの事業全体と体制を見直すことにいたしました。

まず総務企画部は、組織担当グループ（地域協議会との連携、会員管理等）、広報グループ（ホームページ及び広報誌）、ケアマネジメントグループ（ケアプラン適正化事業、制度改正への対応等）、災害対策グループ（平時の対応や組織としての対応、地域の実情把握等）とし、それぞれのグループの役割の明確化を図りました。

次に研修部は、企画グループと運営グループに分かれて、法定研修に限らず会員へ向けた研修

全般に対して、提言や実施方法を明確化していきたいと考えております。特に法定研修に関しては、新しい生活様式を踏まえ、地域別開催など開催方法の見直しを迫られております。

また新しく書籍編集委員会を設け、当県独自の事例集の作成や、会員に必要なものを開発していきたいと考えています。

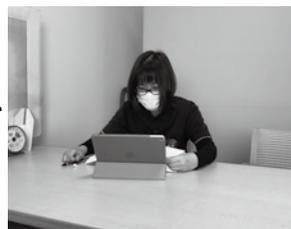
これらの新体制は、理事だけで実現できるものではありません。地域の会員の皆様にも積極的に関わっていただきたいと考えています。是非ともみなさまの力を貸してください。会員にとって意味のある活動を目指していきたいと考えております。

進む研修の新常識「オンライン研修」を振り返る

今年度の主任介護支援専門員研修は、新型コロナ感染拡大のため3か月延期となり、集合研修が5日間、講義視聴と個人学習の通信学習が36時間と例年とは異なる形式で実施されました。通信学習は研修科目ごとに講師の先生方の講義を視聴、講義の中で個人ワークに取り組むものでした。講師の先生方の講義は、理解しやすいように配慮して下さっていることが視聴している私達に伝わってくるとてもわかりやすい内容で、聞き逃してしまった際には再生して聞くことができましたし、仕事の合間など都合のいい時間に視聴することができ時間を有効に使うことができたと感じています。個人ワークは自身の振り返りはできましたが、様々な意見を聞くことを通しての新しい発見や視野を広げることができなかつたことが残念に思いました。集合研修は、ソーシャルディスタンスを保つため長机に1人と、隣の方と気軽に話すことが難しい雰囲気でしたが、講義が始まると講師の先生の熱心な指導の下、積極的に話し合いが進み、グループワークの楽しさや学びの多さを再確認することができました。コロナ禍の中、不安や戸惑いを感じながらの研修でしたが、研修開催のためご尽力下さいました皆様方に感謝し、主任介護支援専門員の責務を果たせるよう日々努力していきたいと思っております。

(株)ケアネット会津サービスセンター 福西 真奈美

ビッグパレットふくしまにて、令和2年度福島県介護支援専門員研修Ⅰ、Ⅱを受講させていただきました。コロナ禍ということで日程や研修方法が集合研修のほか通信学習が加わりました。



通信学習は初めての試みで、動画を視聴しワークに取り組むという方法で行われました。動画で学習するという方法に戸惑いを感じ、自分なりの学習方法を見つけ積極的に取り組むかが問われる方法だと思いました。自分のペースで学べ、動画を見返すことが出来たのは利点であるとも感じました。また、集合研修で顔を合わせ、意見を交換し交流でき講師の先生やファシリテーターの先生方の話を直接聞くことができ、理解を深めることが出来ました。これまで集合研修で行えていたことは本当に貴重な機会であったと実感させられました。今後、このような研修方法は当たり前になってくると思います。「研修を受けに行く」のではなく「自ら学ぶ」姿勢が大切だと感じました。

このような状況の中、研修を実施し学びの場を作っていただいた、福島県介護支援専門員協会の皆様、講師の先生方に感謝申し上げます。この研修で得たものをこれからも業務に生かしていきたいよう日々努力して参りたいと思っております。

(株)ケアネット会津サービスセンター 鈴木 馨

第23回(令和2年度)介護支援専門員実務研修受講試験の結果について

新型コロナ禍におけるケアマネ試験、本県は120人が合格。

受験者数 908人(752人)	合格者数 133人(120人)	合格率 14.6%(16.0%)
------------------------	------------------------	-------------------------

(福島県高齢福祉課ホームページより)

新型コロナウイルスの影響が避けられない中での試験でしたが、福島県における受験者数は前回から156人増加。合格者数も13人増えました。

厚生労働省より、次回の介護支援専門員実務研修受講試験を10月10日(日)に実施との発表がありましたが、一昨年から、深刻な被害をもたらした豪雨災害や新型コロナウイルスの流行により、受験に臨む環境は厳しく変化しています。

今年度は試験が無事、円滑に実施されることを祈念します。

会員登録内容の変更手続きについて 総務企画部

会員登録内容の変更(氏名、住所、所属事業所)、退会、Fネットの停止があるときには、県協会HP入会方法ページにあるそれぞれの届け出をダウンロードし、記入の上速やかに地域協議会事務局に提出をお願い致します。

また、勤務地の変更により、現在所属している地域協議会から移動となる場合には、転出する地域協議会に退会届を提出し、転入する地域協議会に入会届を提出して下さい。

その際には、各様式の備考欄に転出する地域協議会名、転入する地域協議会名を記入する欄がありますのでそれぞれの届け出に記入をお願い致します。

令和3年度の法定研修について 法定研修部

福島県より受託しております介護支援専門員法定研修「専門Ⅰ研修」「専門Ⅱ研修」「主任介護支援専門員研修」「主任介護支援専門員更新研修」は新型コロナウイルス感染防止の観点から実施方法が大きく変わっています。

これまでビッグパレットふくしまで行ってきた集合研修は、各地域の会場を使用し50名程度での実施を予定します。また令和2年度から、集合研修のほかに通信による個人学習を取り入れております。詳細につきましては当協会ホームページの現任更新研修ページにあります、令和3年度福島県介護支援専門員法定研修の手引きをご確認ください。また各研修のお申し込みは手引きに記載してあります申込期間内をお願い申し上げます。

今後も新型コロナウイルス感染状況等、余談を許さない状況が予想されます。

研修についての最新情報は当協会ホームページのトップページ「新着情報」に掲載していますのでこまめにご確認くださいませよう重ねてお願い申し上げます。

発行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会長：菊地健治

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 伊東 靖裕 本名 由美 藤江 眞明 清野 公隆 根本 恵実

阿部 智子 石井むつ美 三本松久美子 齋藤 眞尚 佐々木香織